

JSPS Strasbourg Office

日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター活動報告（2006年10月～12月号）

11月にもなると、フランスの多くの町でクリスマスを迎えるためのイルミネーションの飾り付けが始まります。ストラスブールはヨーロッパでも特に歴史のあるクリスマス市（Marché de Noël）がたち、街は華やかになります。今年は大変な暖冬ですが、それでも体を温めるためのヴァン・ショー（砂糖やシナモンを加えて温めた赤ワイン）とマロン・ショー（日本で言うところの焼き栗です）はクリスマスめぐりに欠かせません。



学術セミナー及びルイ・パスツール大学（ULP）との Joint Seminar の開催

10月～12月は合計3回のセミナーを開催しました。

10/10 第9回 ULP-JSPS 合同セミナー 馬渡峻輔教授（北海道大学大学院理学研究科）
「種に名前をつける」

10/19 第50回学術セミナー Dr. Marie-Hélène METZ-BOUTIGUE(Director of Research, INSERM)
「神経システムと免疫システムとの交信：クロム親和細胞の関与」

12/18 第51回学術セミナー 浅川義範教授（徳島文理大学）
「苔類、非食菌類およびシダ類の化学成分およびそれらの薬学薬理活性の最近の進歩」



第9回 ULP-JSPS 合同セミナー
講演者 馬渡峻輔教授



第50回 学術セミナー
講演者 METZ-BOUTIGUE 博士
（前列右から4人目）



第51回 学術セミナー
講演者 浅川義範教授（前列右から
3人目）

第4回日仏高等教育シンポジウムへの参加

10月5日から10月6日の2日間、グルノーブルで開催された第4回日仏高等教育シンポジウムにストラスブールセンターも参加しました。同シンポジウムは、日仏間の高等教育についての理解と連携を深めるため、両国の大学学長、政府関係者らが集まって1998年に第1回会合を東京で開いて以来、第2回ストラスブール（2001年）、第3回京都（2003年）と開催されてきました。ストラスブールでの第2回会議では、当センターが所在することになる日仏学会館を設置することが決定されるなど、両国の高等教育に関わるトップクラスの関係者が一同に会する重要な機会となっています。

第4回シンポジウムは、グルノーブル大学がホスト校となり、日本側からは、相澤益男東京工業大学学長（国立大学協会会長）、梶山千里九州大学学長（国立大学協会副会長）、納谷廣美明治大学学長（日仏共同博士課程日本コンソーシアム議長）ら国公立大学の学長をはじめとする大学関係者や、飯村豊在フランス日本国大使、磯田文雄文部科学省審議官ら政府関係者、フランス側からは、フランス大学学長会議(CPU)メンバーや、大学関係者、及び政府関係者が出席して、以下の4つのテーマについてセッションを行いました。

- (1) 現行協力の評価： 日仏共同博士課程、JSPS の日仏学術プログラムなど
- (2) 大学のガバナンス / 大学の国際交流
- (3) 研究政策，拠点政策： クラスター拠点形成や大学の地域貢献
- (4) 開発途上国における発展のための研究： 新しい日仏協力分野

本会からは小野理事長が講演者として出席し、“ JSPS s New International Approaches and Initiatives ” というタイトルで本会の概要、日仏間で実施している国際事業の紹介等について発表されました。



発言する小野理事長（中央）



出席した学術振興会メンバー



Prof. Bernard Carrière ルイ・パスツール
大学学長（左）との懇談

第 5 回 JSPS フォーラム “Chemistry contributing to the Society : Green Sustainable Chemistry” の開催について

フランスにおける第 5 回 JSPS フォーラム（社会に貢献する化学：グリーンサステイナブルケミストリー）が 2006 年 11 月 24 日（金）に、ストラスブールのルイ・パスツール大学超分子科学・工学研究所(ISIS)で開催されました。フランス高等教育・研究担当省、CNRS、ルイ・パスツール大学との共催により実現したものです。

本フォーラムでは、「現代の経済的繁栄を保ちながら環境負荷を減らし、人類にとってより安全な 21 世紀環境調和社会を築くという目標に対して、化学はどのような役割を果たす事ができるか」についての、日仏を代表する化学者 8 名による講演が行われ、300 名を超える参加者を得て活発な議論や情報交換が行われました。



Prof. Guy Ourisson



庄司隆一総領事



Prof. Gilberte CHAMBAUD

24 日には、フォーラム会場超分子科学・工学研究所(ISIS : Jean Marie-LEHN 教授のノーベル化学賞受賞を記念して建てられた研究所)に参加者が続々と集まりました。開会式では、中谷センター長による挨拶があり、11 月に急逝された Guy OURISSON 教授（初代ルイ・パスツール大学学長、元フランス科学アカデミー会長、日本の若手研究者育成の功績により勲二等瑞宝章）への出席者全員による黙禱が捧げられました。その後、庄司隆一在ストラスブール日本国総領事、Prof. Gilberte CHAMBAUD（CNRS 化学部長）より開会の御挨拶をいただき、続いてフォーラムでは 8 名の講演者による講演とディスカッションが行われました。詳細は以下の通りです：



御園生誠東京大学名誉教授（前日本化学会会長、製品評価技術基盤機構理事長）により、「将来の持続的社會に向けての化学と技術」と題して、グリーンサステナブルケミストリー（GSC）の概念はどのようなもので、具体的にはどのようなことを行っていくべきか、という点をテーマにした講演がありました。GSCは持続的社會のための重要な要素であること、その目指すところが紹介されました。

次いで Prof. Armand LATTES (フランス化学会会長、Paul Sabatier 大学) は、「グリーンケミストリーと組織化分子システム内での反応性」と題して、持続的発展のためには環境を汚染しない有機合成を行う必要があり、反応媒体がそのため重要な因子であるとの観点から、組織化分子システムがグリーンケミストリーの諸々の原則に合致したものであることを水溶液中での反応や酵素の利用などの実例を挙げて解説しました。



辰巳敬教授（東京工業大学資源化学研究所）からは、「グリーンサステナブルケミストリーに役立つ精妙なマイクロ細孔ならびにメソ細孔物質」と題し、新規な結晶内細孔や結晶外表面を拡張したゼオライトや、アニオン界面活性剤を用いて得られるメソ多孔体、シリカナノ球状粒子の合成法についての説明があり、それらを用いた環境調和型酸化反応や吸着分離についての紹介がありました。

Prof. Bruno CHAUDRET (フランス科学アカデミー会員、CNRS 配位化学研究所) により、「有機金属ナノ粒子の合成と応用」と題し、各種の有機金属を原料にして温和な条件で金属ナノ粒子をつくることによりサイズ、形状、表面状態が制御可能であること、またこの手法が酸化ナノ粒子にも適用できること、さらにナノ粒子が2次元または3次元に自己組織化により配列することが紹介されました。



小林修教授（東京大学大学院薬学系研究科）からは、「真に効率的で力強い有機合成を目指して」と題し、希土類金属などのルイス酸やある種の塩基性の配位で安定化したルイス酸が水溶液中で使うことができること、環境調和型化学反応やコンビナトリアルケミストリーのための高速処理有機合成反応の両者の観点から高分子にサブナノサイズの金属クラスター粒子を固定化した触媒を用いた反応の実例が紹介されました。

Prof. Jean-Marie TARASCON(フランス科学アカデミー会員、Picardie Jules Verne 大学)からは、「グリーン社會のためのリチウムベースエネルギー貯蔵システム用材料の設計」と題し、電気自動車やハイブリッド車用の大型リチウム電池の性能向上のために、経済的、低毒性、資源的制約の少ない材料としてコバルトやニッケルを鉄やケイ素で置き換えた電極材料の開発について紹介がありました。





Prof. Gérald Férey (フランス科学アカデミー会員、Versailles St-Quentin 大学) により、「ハイブリッド多孔体：多機能性物質の合理的創製」と題して、オリゴマーを構造単位として各種の大細孔を持つ多孔体を組み上げ、実験値とコンピュータシミュレーションの比較によりその構造を推定する手法と大きな単位格子かつ非常に大きな比表面積を有する物質の例が示されました。

Prof. Jean-Pierre SAUVAGE (フランス科学アカデミー会員、Louis Pasteur 大学) は、「化学トポロジーから分子機械・分子モーターへ」と題し、生物モーターあるいは分子レベルの情報処理などの生物の機能を模した分子機械・分子モーターの研究分野における発展が近年著しいことを、外部刺激に対して大幅な変形や運動を起こすシステムとしてのカテナン(連結環)や結び目で連結したロタキサン分子の例によって示しました。



また、日仏の若手研究者による 25 のポスターセッションによる研究発表及び日本側参加大学の資料展示も同時に行われ、日仏の学术交流を促進する有意義な機会となりました。JSPS の事業についての白石副センター長によるプレゼンテーションも行われました。

25 日には、ポストフォーラムとして、Port Autonome de Strasbourg (ストラスブール自治港) 招待による船によるストラスブール港見学を行いました。



フォーラム講演者・チェアマン・来賓を中心に



ポスターセッションの様子



JSPS プレゼンテーション



フォーラム会場 ISIS



フォーラム風景



日仏大学会館でのレセプション
Prof. Richard KLEINSCHMAGER
ルイ・パスツール大学副学長(左)
Prof. Danièle ALEXANDRE
日仏大学会館館長(中央)



フランスの大学、グラゼコール、研究機関への訪問：JSPS 事業説明会・JSPS 同窓会支部会の実施

10月～12月に行った事業説明会については、次回号で報告する予定です。